

# 遙かなる夙雪

実録・柴田音吉洋服店

22

## 洋服組合史を飾る——絢爛たる49年の生涯

昭和5年6月に大阪洋服商同業者組合が編さん、刊行した日本洋服沿革史の中に、初代の業績とともに2代目音吉の神戸組合長としての名が記されている。またすでに「神戸洋服」に対する評価もとどめられている。

当時の神戸組合員は203名。組合設立の当初の目的は職工、徒弟の取締のためであり、また昭和初期に入ると材料の共同仕入、共同販売、融資、共同施設が商業組合法の大きな魅力であった。

洋服組合史上での2代目音吉の業績は後世に残るものがある。昭和元年、九州の東亜博覧会を契機に関西の業者代表の1人として九州業界と接触、翌2年10月に明石公会堂で西日本洋服商組合連合会を誕生させた。会長に堀内善吉(大阪)そして音吉は東島文六(九州連合会)とともに副会長に就任した。そのときの組合の主要事業は①関税引上反対運動②営業収益税軽減に関する陳情③羅紗商側との取引改善の各種協定④徒弟無断出奔の場合新聞紙上に「使用停止」の旨掲載、などである

昭和4年11月、音吉は工場法適用除外問題に関し建議し小規模洋服業者に対し適用されていた工場法の除外を内務省その他に請願、東日本連合会と協調して「適用寛大」にこぎつけている。

音吉はさきに述べたようにこの後昭和7年には堀内善吉のあとを受けて会長に就任した。アメリカから全世界に波及した大恐慌の悪夢のさ中である。

翌8年3月20日から1カ月、現在の神戸服技術コンクールの嚆矢ともいふべき全日本国産洋服博覧会が開かれた。主催は大阪組合で、同時に全日本洋服商大会と併催された。

博覧会には神戸から関屋洋服店、幸山才之助、源野屋洋服店、十字屋洋服店、神田洋服店、古市佐一郎が名誉賞に



2代目柴田音吉の胸像

入賞、兵庫の田中洋服店が有功賞に入賞した。音吉は審査にたずさわった。

共進会、徒弟裁縫競技会などの名で行なわれていた技術競技会が全国的組織で催された画期的なイベントであった

× ×

同時に開催された洋服商全国大会の後援は東西日本洋服商組合連合会。神戸組合は協賛団体に名を連ねている。

大会の決議事項は当時の業界の問題を知る上で興味深い少し長いが引用しよう。

### 綱領

一、国民被服の改善統一を図り洋服普及を宣伝する事

一、技術を練磨し材料を厳選し製品の向上を期する事

一、商取引を改善し且生産の経済化を達成する事

### 宣言

国家非常時に直面し我等国民生活必需品たる洋服生産業者の責任の重且大なるは敢て贅言を要せざる所なり 茲に於て天下周知の悪税たる毛織物消費税の撤廃を政府に要望すると共に製産技術の練磨と需給の合理化に相俟ち 内は国民服装の統一を図り外は国際市場に雄飛すべく吾人同業者協力一致以て国家産業の振興に貢献せんことを期す

### 決議事項

一、既製洋服の寸法規格を統一し全国普及を期す

二、毛織物消費税の撤廃を関係当局に請願す

三、洋服名称の改正を考究

四、官営洋服事業の民業移譲を政府当局に請願す

五、国民羅紗検査制の全国施行を政府に要望す

六、刑務所の洋服業圧迫に対し之が阻止運動をなす

七、国防費の献金募集

八、郵便法第二章第八節集金郵便規則中改正意見を当局に陳情す

さて、こうしてみると当時も現在も変わらない問題点が多々ありそうだ。同時に当時の官権の大きさと、軍国主義体制へ向けてまっしぐらにつき進んで行った時代を、背景に読みとることもできそうだ。

大会のあった翌9年4月9日、2代目音吉は病を得、49才の短い生涯を閉じた。けんらんたるそして精気みなぎる一生であった。その年の11月16日、羅紗業界の有志は関西羅紗業界につくした4人をしてのぶ追悼会を行なった。4人とは山田栄吉、鷹岡覚之助(大阪)有本嘉兵衛(京都)そして2代目柴田音吉であった。(つづく) 岡 和子記者